

■単収・食味UPを目指して~黄化割合を確認して刈り取り適期を見極めましょう~

- ①異物異品種混入防止 (GAPの実施)
 : コンバイン・乾燥調製機械一式・施設内の清掃点検の徹底、作業圃場の品種確認を行きましょう。
- ②適期刈り取り: 圃場毎の登熟状況(黄化状況)を確認し、適期に刈り取りましょう。(黄化割合80~90%が適期)
- ③乾燥調製: 水分(目標玄米水分15.0%以下)と適正量目(30.5kg)の確認、ロールの閉めすぎ注意。

生育状況

1. 生育の推移

今年の田植え作業は、平年並みで始まりました。苗の徒長により植え痛みが見られ活着・初期育成に影響が出ました。5月下旬の気温は平年概ね平年並みに経過しました。梅雨入り後は、平年より多い降水量でしたが、気温は高く、日照時間も平年並みの状況でした。出穂状況は、平年より2日早く出穂しました。8月の気温は平年より高く、日照時間も平年より多い状況でした。黄化が進んでいる圃場もありますが、水口周辺など黄化にバラツキある圃場もあるため穂の熟色により判断しましょう。

2. 成熟期調査結果

金ケ崎地域展示圃(穂数は株当)

8月26日調査	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)
当 年 値	89.0	18.3	30.0
平 年 値	85.2	18.6	27.3
平 年 差	+3.8	-0.3	+2.7

異物・異品種混入防止対策の徹底

異物・異品種の混入は産地(生産者)の責任です!!



ポイント①: コンバイン・乾燥調製機械一式・施設内の清掃点検の徹底、作業圃場の品種確認を行きましょう。

1. 異物混入防止(石・小枝・ガラス・金属片・ねずみ糞など)

毎年、小石等の異物混入のクレームが発生しています!

- ① 収穫・乾燥調製機械一式(施設)の清掃・整備の徹底。
- ② 水田内の清掃(特に道路沿いの水田)。
- ③ 機械稼働始めの米は飯米対応する。
- ④ 乾燥調製施設内にジュース缶等は絶対置かないようにしましょう。
- ⑤ 水田内の雑草種子の混入に注意しましょう。(クサネム等、図1参照) 缶類・ビン類・ペットボトル・電池類
 ※水田雑草「クサネム」を確認した場合は手取り除草をしましょう。抜き取ったクサネムは畦畔に放置しないようにしましょう。
 万が一、クサネムの種子が玄米に混入すると、除去する事が困難になります。



図1: 水田雑草: クサネム

2. 異品種混入防止(異品種・モチ米など)

- ① 清掃の徹底(収穫・乾燥調製機械一式・施設)
- ② 作業圃場の品種確認
- ③ 集出荷時の品種および作業工程の確認

3. 玄米への臭いの付着について(移り香防止)

- ① 油の臭いがするとのクレームが来ております。近くに油類は置かないようにしてください。
- ② 不完全燃焼防止のため、収穫機械・乾燥調製機械等に、不良燃料を使用しないでください。

適期刈り取りの目安

適期刈り取りによる品質・食味の向上を目指しましょう。



ポイント②: 圃場毎の登熟状況(黄化状況)を確認し、適期に刈り取りましょう。

刈り取り時期の判定は、出穂後の積算温度と穂の熟色(黄化状況)を総合的に見て判定する!

1. 出穂後の平均気温積算値による刈り取り時期の推定

- ①基準日を確定させる・・・出穂40~50%の時期(表1)。出穂期から45日前後。
- ②作付け品種の、積算温度による刈り取り適期幅(範囲)を把握する。
 ※ひとめぼれの場合、積算温度900~1050℃が適期刈り取り時期の目安となります。
- ③基準日を「表2:金ケ崎地域、今後の積算温度到達の予測」に当てはめ、刈り取り時期を推定する。

■表1: 令和6年地区別、出穂期40~50%(基準日)

標 高	70m以下	100m前後	100m以上	130m以上
出穂期	7月28日頃	7月29日頃	8月2日頃	8月4日頃

■表2: 金ケ崎地域、今後の積算温度到達の予測 (8月27日現在)

出穂期 (月/日)	刈り取り適期積算気温到達日(月/日)			
	900℃	950℃	1,000℃	1,050℃
7/25	8/25	8/27	8/29	8/31
7/26	8/26	8/28	8/30	9/1
7/27	8/27	8/29	8/31	9/2
7/28	8/28	8/30	9/1	9/3
7/29	8/29	8/31	9/2	9/4
7/30	8/30	9/1	9/3	9/5
7/31	8/31	9/2	9/4	9/6
8/1	9/1	9/3	9/5	9/7
8/2	9/2	9/4	9/6	9/8
8/3	9/3	9/5	9/7	9/10
8/4	9/4	9/6	9/9	9/11
8/5	9/6	9/8	9/10	9/12
8/6	9/7	9/9	9/11	9/13
8/7	9/8	9/10	9/12	9/14
8/8	9/9	9/11	9/13	9/16
8/9	9/10	9/13	9/15	9/17
8/10	9/12	9/14	9/16	9/18
8/11	9/13	9/15	9/17	9/20
8/12	9/14	9/16	9/19	9/21

※高温年は茎葉の枯れ上がりが遅い割に籾の黄化が早く進みますので、積算温度だけでなくほ場の黄化割合をしっかりと観察し、刈り遅れにならないよう注意しましょう。

異物・異品種混入防止のため、事前にコンバイン・ハーベスタ・乾燥機・粳摺り機等の点検清掃は、必ず行いましょう。

2. 穂の熟色による判定

～1の積算温度で推定した時期に到達後、判断する～

生育が平均的などころの穂の中で、1穂の**籾の80～90%が黄化**
(または親穂の90%が黄化)した時点が刈り取り適期の目安となります。

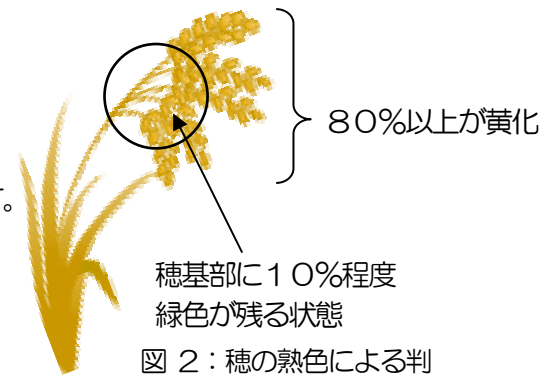


図2：穂の熟色による判定

表1：黄化籾の割合による刈取適

刈り取り作業	～全体的に青みがなくなるころが刈り取り適期～	黄化籾				
		70%	80%	85%	90%	95%
自然乾燥		刈取り早い	刈取り適期	刈取り適期	刈取り遅れ	刈取り遅れ
機械乾燥		刈取り早い	刈取りやや早い	刈取り適期	刈取り遅れ	刈取り遅れ

1. コンバイン刈り

- ① 籾水分が25%以下から始め、2週間以内に刈り取りましょう。(岩手県農業研究センター 研究レポートNo.165より)
- ② 収穫後の生籾は、ヤケ米防止のため、速やかに乾燥機に張込み乾燥をしましょう。
- ③ 収穫は午前10時頃～午後5時頃を目安とし、籾が濡れている時間帯の刈り取りは避けましょう。
- ④ 品質の均一化のため、**生育が遅れた場所や倒伏・穂発芽のあった場所、病害虫の被害があった場所**については刈り分けを行いましょ。
- ⑤ 適期を過ぎての刈り取りが予想される場合は、所有する乾燥機とカントリーエレベーター等の体系を組み合わせ、1日の刈り取り面積を増やし品質保持に努めましょう。
※上記対策を講じてもコンバイン作業受託面積が多く、明らかに刈り遅れが予想される場合は、**他の受託者に応援要請**するなど、品質保持最優先で胴割粒などの品質低下防止に努めましょう。

2. バイナダー刈り

～刈り取り適期幅でもやや早めの刈り取りが望めます(棒掛け期間も登熟は進みます)～

- ① 刈り倒し後はその日のうちに棒掛けとし、**地干しは絶対にしないように**しましょう。
- ② 棒掛け乾燥期間は20日を限度とします(乾燥期間が長いと胴割れの原因となる)。20日間を越えても水分が適正より高い場合は、カントリーエレベーター等の施設を利用し品質低下を防ぎましょう。



乾燥調製

ポイント③：水分(玄米水分15%以下)と適正量目の確認(30.5kg)・ロールの閉めすぎに注意

異物・異品種混入防止に機械の清掃を徹底しましょう!

- ① **二段乾燥を基本とし、籾水分が16～17%程度で一時中断・放熱後、再度火力乾燥して、仕上げ水分は15%以下に仕上げましょう。**
※乾燥終盤(仕上げ時)は手持ち水分計(図3)で確認・チェックしましょう。
(乾燥機の水分計が正確でない場合があるため)
- ② 乾燥機への張込み量は、80%を目安としましょう(少なすぎても多すぎてもトラブルのもと)。
- ③ 急激乾燥や高温乾燥は品質・食味低下となるので、絶対に行わないようにし、晴天時は設定基準より5℃程度低めに設定し、乾燥調製を実施しましょう。
- ④ もみ摺りロールの点検調整は必ず行い、適正流量での作業に努めましょう。
- ⑤ **1袋当りの量目、皆掛30.5kgを必ず確認**しましょう。



図3：水分計 ※資材センターで取り扱っております

出穂・開花にバラツキのあった圃場や倒伏した圃場では登熟程度・水分分布に大きな差があります。手動による高温急激乾燥は、乾燥ムラを引き起こすばかりか、胴割れ粒の発生を助長します。火力乾燥作業は慎重に行い、胴割れ粒等の発生・品質低下を防ぎましょう!!

収穫後の圃場管理

1. 排水対策の実施

コンバイン作業後、クローラーの旋回後などに溝ができ、水が溜まりやすくなる事から、速やかに排水が進むよう溝掘りを行い、乾田化に努めましょう(稲わらの腐熟促進にもつながります)。

2. 稲わらの秋鋤きこみ

生ワラのすき込みを行う場合は、必ず下記**腐熟促進資材を散布**し、可能な限り気温の高い時期に行いましょう。(微生物の活動が活発なので、ワラが腐り易い)

※ 移植後にガス湧きが強くなる圃場がある場合は、確実に実施しましょう。

【10a当りの使用例】

栽培体系	資材名	10a当りの使用量	資材の特徴
全ての栽培体系で使用できます。	ふるさと大地2号(秋)	2.5袋 (50kg)	土壌改良+腐熟促進
	お米ざんまい	2～3袋 (30～45kg)	土壌改良+腐熟促進(有機入)
	石灰窒素	0.5～1袋 (10～20kg)	腐熟促進※ノビエ除草効果有

※ 石灰窒素は農業登録された肥料ですが、腐熟促進のみを目的として秋施用する場合は、**農薬および化学合成窒素としてカウントされません。**

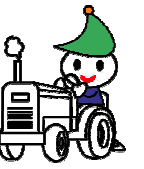
※ 石灰窒素はノビエに対する除草効果がありますが、特別栽培米を外れる場合があり、使用量も通常と異なるので、使用の際はJAにご相談下さい。

3. 斑点米カメムシ対策(畦畔除草剤の使用)

近年、畦畔の草刈りにかかる作業時間が増えているだけでなく、畦畔雑草がカメムシ被害を助長する要因となっています。その対策として秋の畦畔除草剤の散布をオススメします。秋に畦畔除草剤を散布するメリットは主に下記3点が挙げられます。

1. 翌春の草刈り作業回数を省略できる。
2. カメムシの翌春の生息場所が無くなるため、被害を抑えることができる。
3. 野ネズミの越冬場所を無くするため、畦畔の崩れや漏水の原因を減らすことができる。

但し、使用する際には強風時の使用を避け、飛散(ドリフト)防止用カバーを使用するなどして周辺作物への被害がないように配慮願います。使用例については、下記表を参照。



資材名	希釈方法(10a当たり)	使用時期
ラウンドアップ マックスロード	少量散布時：200～250mlを20～25lの水に希釈 ※ラウドブルULV5使用時は500mlを5lの水に希釈	収穫後 (畦畔雑草が枯れる前) ※おおよそ11月末まで
サンダーボルト007	400～600mlを100lの水に希釈	
バスタ液剤	500～1000mlを100～150lの水に希釈	

※8月一斉外務にて、上記3点の申込書を配布していますので、是非ご検討をお願いします。

水稻栽培管理記録簿・水稻農業生産工程管理手法(GAP)チェックシートへの記入について

■記録用紙の内容を確認し、取り組み項目に応じてチェックしましょう。

～令和6年産GAPチェックシートの取り組み(9月編)～

令和5年産のGAPチェックシート集計結果からチェック率の低い項目を毎月紹介していきます。令和6年産ではチェック欄に〇がつくよう取り組んでいきましょう!
「(必須項目) 収穫した米に異物が混入していないか、点検している(乾燥・調製時)」(63.5%)
「(必須項目) 出荷するすべての米についての出荷記録を持っている」(60.7%)
→必須項目は特に意識して取り組むようにしましょう。

～お知らせ～

- ① 生産資材・生活資材のご注文・配達先…
「**拠点配送センター**」 0120-516-911 (フリーダイヤル)
- ② 生産資材・直取り・窓口供給品は…
「**金ヶ崎資材センター**」 43-2780
・平日営業時間：午前8:30～午後5:00
・休日営業時間(土曜日のみ)：午前8:30～正午12:00
(※日曜日・祝祭日は休みとなります。)

LINE 友だちアカウント

友だち募集中

@703kysmi
うれしい情報をLINEでお届け!

LINEにて営農情報を発信中です!
上記QRコードからお友達登録をお願いします。

秋の農作業安全月間に入ります!! 9月15日～11月15日

「ひと休み 急がば回れ 農作業 ゆとり忘れず 安全管理」